

フォレスト ウィンズ Forest Winds



もりからのかせ・東北



No.82 September 2020

東北地方におけるスズタケの一斉開花

全国規模で起こった スズタケの一斉開花

スズタケは、イネ科タケ亜科スズタケ属に含まれるササ類植物です。タケ亜科植物の多くは長寿命の最後の年に一回開花して、そ



写真1 スズタケの結実(2017年7月)

の年のうちに結実・枯死するという繁殖様式をもちます(写真1)。これを一生一回繁殖性植物といいます。さらに、もうひとつ繁殖上の特徴として、いわゆる“一斉開花”を起こします。これは、多個体同調開花と呼ばれ、大面積で複数の個体が時期を同じく(同調)して開花する現象です。しかし、イネ科植物

ですから花卉が華やかな花は咲きません。一斉開花すると、時には一山まるごと開花して茶色に枯れる場合もあります(写真2)。近年では、2005年に秩父地方で数千ヘクタールにもおよぶスズタケの一斉開花が起こりました。これをきっかけに、その後何年もかけて全国に分布するスズタケの一斉開花に広がりました。2016年くらいまでには関東地方の各地で転々と一斉開花が見られていたのですが、2017年には中部地方の分布の全域、約19万ヘクタールが一気に開花しました。

東北地方での一斉開花

スズタケの分布は北海道から九州までの広範囲に及びますが、太平洋側の一定の標高以下の地域に限られています。東北地方でも、太平洋側の県に分布し、とくに福島県・宮城県・青森県では限られた地域にしか分布しません。このため、東北地方で主に分布するのは岩手県ということになります。岩手県内のスズタケの一斉開花は、これまでの情報では2014年に初めて西根町(八幡平市)で観察されています。東北全体でこれが最初の開花かはわかりませんが、その後のまとまった一斉開花の事例には、2015年に滝沢市、2016年から2017年には岩手町、2018



写真2 ヒノキ人工林の林床に広がっているスズタケの枯死稈(2018年5月)



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所

Tohoku Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute,
Forest Research and Management Organization, National Research and Development Agency

年に一戸町、2019年に二戸市、軽米町などがあります。これらの記録により、岩手県では主なスズタケの群落の一斉開花が概ね終了したと考えられます。

一斉開花がもたらす影響

ササの一斉開花は社会的に大きな影響をもたらす場合があります。その影響には良い面と悪い面があります。良い面には、樹木や林床の植生などへササが及ぼす悪い影響が取り除かれることです。例えば、人工林では、ササは植栽した苗木を被陰して成長を阻害したり、天然更新施業の現場では、樹木の実生の更新を邪魔するので、普通は刈払いしたり、除草剤を散布するなどして積極的に駆除する必要があります。しかし、一斉開花することで林床を覆うササが枯れると、しばらくの間は、こうした苗木の成長や樹木の更新阻害が解消されます。

一方、悪い影響とは、人によるスズタケの利用が途絶えてしまうことです。スズタケは他のササ類と異なり地上稈が直立して根曲がりしないことが特徴です。また、ササの地下部と地上部の重量比でみると、地上部の割合が非常に大きく、稈の高さも高くなる種類です。こうした利点を生かして、例えば岩手県北部の一戸町などでは、古くから工芸品な



写真3 スズタケを使った「鳥越竹細工」

どの材料に利用されてきました(写真3)。スズタケ細工の材料としては、その年に筍から成長した当年生稈(図1)で特に長いものがたくさん必要です。ところが、一斉開

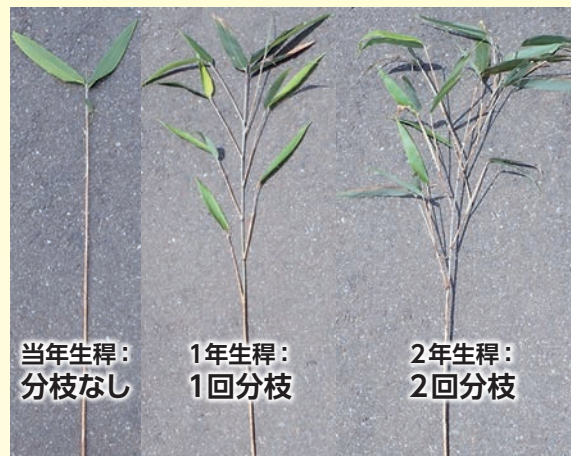


図1 スズタケの稈(当年生稈、一年生稈、二年生稈)

花して枯れてしまうとその材料が全く取れなくなります。まだ開花してない群落を探すか、枯死した群落で次世代が更新してくるのを待つしかありません。しかし、ササが種子(写真4)から芽生えて、稈の高さが開花前



写真4 スズタケの種子(2017年8月)



写真5 種子から発芽したスズタケの芽生え(2017年4月)

の群落のように戻るまでには長い年月がかかります。スズタケについてはよくわかっていませんが、例えば、東北でも雪の多い山地に分布するチシマザサの場合は約20年かかります。また、通常ササは地面に落ちた種子は翌年には発芽しますが、スズタケの場合は2年後の発芽(写真5)が多いとされているため、他のササ類よりも回復するには時間がかかる可能性があります。

●育林技術研究グループ

齋藤 智之



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用



Forest Winds No.82

令和2年9月15日発行

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 東北支所

〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25

Tel.019(641)2150(代)

Fax.019(641)6747

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/>